

日本の伝統・文化を継承する若者たち

明日への扉

Door to Tomorrow



Yuhei Kojima

1989年神奈川県生まれ。「木工の仕事がしたい」と思いを抱き、高校卒業を機に箱根寄木細工職人の露木孝一氏に弟子入り。現在は神奈川県南足柄市にある師匠の工房で修業に打ち込んでいる。

箱根寄木細工 (はこねよせぎざいく)

江戸時代後期に発案されたとされる工芸品。箱根が国内唯一の産地で、1984年には国の伝統的工芸品に指定された。箱根駅伝の往路優勝校に箱根町が贈呈する優勝トロフィーも、この箱根寄木細工でつくられている。



箱根寄木細工職人

小島 裕平 氏

自然の木々とともに、美しい紋様を織り成す。

かつての東海道の要衝であり、今では温泉や自然の景観を求める人々にぎわう箱根。その土産としても知られる工芸品が、約200年の歴史を持つ箱根寄木細工。天然の木を寄せ合わせてつくる色鮮やかな紋様は、豊富な樹種を擁する箱根の山と繊細な美的感覚が生み出した、日本ならではのカタチだ。

小島裕平さんは、伝統の技の体得に励む若き職人。木工の世界にずっと前から憧れていたという。

どうしてこの道に？

小島「幼いころ木のおもちゃが大好きで、それをまねて自分でつくったことが最初のきっかけです。箱根寄木細工に出合ったのは18歳のころで、進路を決めるときでした。実物を見てすごいと思う、自分もつくろうと決心したんです」

箱根寄木細工には小箱や盆、小箆など多彩な品がある。しかし、10年やつて一人前とされるこの世界で、経験の浅い職人が製作を許される品は限られている。

キーホルダーなどの小物づくりを通して研鑽を積んできた小島さんに、大きなチャンスが訪れた。師匠の店で販売する小箱の製作を任されたのだ。

成長の証をかたちにする仕事が始まった。挑むのは、小さな三角形からなる幾何学紋様を、より複雑にした名刺箱。最初に、イメージに合った色や質感の木材を選ぶ。次に、2つの木の間に薄い板を挟んで積層の基礎材をつくり、それを三角形に切り分ける。これが紋様の基となるため、作業には寸分の狂いも許されない。一つ一つ、全神経を集中して切り分けた基礎材を隙間なく、幾つも寄せ合わせることで紋様を組み上げていく。

出来上がった紋様を薄く削り、板

に貼り付け組み立てる。小島さんにとつて初めて人の手に渡る小箱の製作。丁寧な作業の末に完成させた。

楽しみは？

小島「やはり、寄木細工をつくっているという実感が得られることですね。それが一番の楽しみです」

箱根寄木細工職人にはさまざまな技量が求められる。会得したかと思えば、また新たな壁が行く手をはばむが、自然の木々が織り成す美しさに心を奪われた若者は着実に階段を上っている。明日への扉を開け、また一歩、夢に近づく。

MORE!!
寄木細工の楽しさに魅了された彼の姿を動画で詳しくご紹介しています。ぜひご覧ください。

※2010年6月取材。掲載内容は取材当時のものです。

日本の伝統・文化を継承する若者たちを紹介する映像ドキュメンタリー「明日への扉」をぜひご覧ください。

MOVIE
WebやTVなどでお楽しみいただけます。

Web版

パソコンやタブレットで
ご覧になれます。



TV番組

ディスカバリーチャンネル (CS)



冠番組

「at home presents 明日への扉」放映中

毎週金曜日 22:53~23:00

ビジョン

ANA国際線「SKY CHANNEL」にて放映中

NEW!!

最新号のご案内 好評公開中

No.047 / 浜松注染そめ職人 二橋 智浩 氏